

早岐川水系河川整備基本方針

平成 15 年 6 月

長 崎 県

早岐川水系河川整備基本方針

目 次

1 . 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 -----	1
(1) ^{はいきがわ} 早岐川流域の概要 -----	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 -----	4
1) 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項 -----	4
2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項並びに 河川環境の整備と保全に関する事項 -----	4
3) 河川の維持管理に関する事項 -----	5
2 . 河川の整備の基本となるべき事項 -----	6
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項 --	6
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項 -----	6
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に 関する事項 -----	7
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に 関する事項 -----	7

< 参考図 > 早岐川水系流域概要図

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 早岐川流域の概要

早岐川は佐世保市東部に位置し、隠居岳（670m）などの山地を源とし、山間を南下した後 JR 佐世保線を越え早岐の市街地に入り、右支川陣の内川を合流後一般県道崎岡町早岐線を越え、大きく湾曲しながら早岐瀬戸に注ぐ、流域面積約 4.3km²、幹川流路延長約 2.5km の二級河川です。早岐川が流入する早岐瀬戸は佐世保湾と大村湾を結ぶ延長約 7 km の狭小な海域となっており、早岐瀬戸北端部の観潮橋では満潮と干潮の潮位変動を調整する工夫がされています。

早岐川が位置する佐世保市の気候をみると、年平均気温は約 16℃、年平均降水量は約 1,930mm となっており、近海を流れる対馬海流の影響を受けた温暖多雨な西海型気候に属しています。

早岐川流域の地形は、隠居岳を中心とした山地と早岐低地で形成されています。地形分類的には、早岐低地から上流の上原水源地にかけて三角州性低地となっており、その間、両側には川を挟むかたちで小起伏山地が形成されています。また、それより上流部が岩石台地で構成されています。

早岐川流域の地質は、低平地である下流部が扇状地や段丘を構成する礫・砂・粘土で形成されており、中流部から上流部にかけては、佐世保炭田に広く分布する佐世保層群と早岐から川棚地域の杵島層群である砂岩・泥岩の互層で形成されています。

また、最上流部では佐世保市、北松浦郡一体に広く分布する玄武岩の熔岩台地が見られます。

風土記によると「早岐」という地名は 4 世紀頃に活躍した土蜘蛛族の酋長「速来津姫」に由来していることから、非常に古い時代から集落が形成されていたといわれています。また、早岐地区は中世頃に構築された街の構造をそのまま残存させており、多くの鍵型交差点を有する平戸往還などの遺構が現在にまで伝えられるなど歴史的背景が強くうかがえる地区であります。また、400 年あまりの歴史をもつ早岐茶市は、かつてこの地区が海陸の交通の要衝であったことを示しています。流域内の主な文化財、史跡としては、大念寺の鐘楼山門、平戸往還石畳があります。

早岐川が位置する佐世保市の人口動態をみると、昭和 50 年までは増加し、それから昭和 60 年まで 25 万人を維持していましたが、人口の流出により平成 13 年度には 24.1 万人となっています。しかし、現在でも長崎市に次ぐ人口を有する北部地域の中心都市です。なお、早岐川流域の流域内総人口は、約 7,500 人で佐世保市人口の約 3% となっています。

流域内の土地利用は、下流部は早岐駅を中心とする市街地が開け、下流部から中流部にかけては住宅地が密集しています。さらに上流部は山腹を切り

開いて水田とするなど土地の高度利用が行われています。

早岐川の治水・利水・自然環境及び河川利用状況の概要は、以下に示すとおりです。

治水の概要

早岐川では、昭和 42 年 7 月や平成 2 年 7 月の洪水において家屋の浸水被害や農地の冠水被害が発生しています。特に、平成 2 年 7 月水害では、洪水と早岐瀬戸の高水位が重なったため、早岐川下流部の広い範囲にわたって浸水被害が発生しました。

これらの水害を契機として、河岸の部分改修が実施されてきましたが、河岸の老朽化は激しく、また、河川沿いには家屋が連担しており川幅も狭いまま取り残されている状況にあります。

このため、地域住民より河川改修の早期着手が強く望まれており、早岐川水系の抜本的な治水対策を策定することが急務となっています。

また、早岐川下流の地区では、「早岐駅周辺整備構想推進事業」の街づくり計画が進められていることより、市街地整備と一体となった、安全で快適な河川整備が重要となっています。

利水の概要

早岐川における水利用は、昔から農業用水と生活用水に利用されてきました。農業用水としては、現在では流域の宅地化の進行から耕地が減少し、上流部の約 6ha で利用されています。

一方、生活用水としては、上原水源地が上原・桑木場簡易水道の水源として利用されています。

自然環境及び河川利用状況

早岐川の流域は、水田地帯を流れる上流部と市街地を貫流する下流部、及び市街地に自然が残る中流部に分かれます。

早岐川の上流部は水田が広がり、河床勾配は急で河床は玉石で構成されています。植生については、川沿いの山付き部ではアラカシ群落や竹林が分布し、河道内にはクズ群落などが見られます。また、山地部ではスギ、ヒノキ植林が広く分布しています。貴重な植物としては、上流部流域を中心に環境省のレッドデータブックで絶滅危惧 類に指定されているエビネ、佐世保市のレッドデータブックで絶滅危惧 A 類に指定されているオオイワヒトデ、絶滅危惧 B 類に指定されているミスオオバコ、同じく佐世保市のレッドデータブックに準絶滅危惧に指定されているキクモが確認されています。魚類

では、ドンコや環境省のレッドデータブックで絶滅危惧 類に指定されているメダカが生息しています。鳥類では、佐世保市のレッドデータブックに準絶滅危惧に指定されているカワセミが確認されており、同様に昆虫類でも佐世保市のレッドデータブックに準絶滅危惧に指定されているウチワヤンマが確認されています。爬虫類ではスッポンが確認されています。

早岐川の中流部は市街地に隣接しながら、山付き区間の樹林地が存在するなど良好な自然環境が残されています。樹林地はシイ、カシ萌芽林を主体にアラカシ、ハゼノキ等で構成されており、水際から植生の横断的な連続性が保たれた特徴的な空間となっています。ここでは、メダカ、カワムツ、トウヨシノボリなど多様な魚類が確認されています。両生類では、長崎県のレッドデータブックで絶滅危惧 類に指定されているカスミサンショウウオが生息しています。鳥類についてもゴイサギ、コサギ、アオサギなどのサギ類やカワセミ、セグロセキレイなどが多様な鳥類が確認されています。

早岐川の下流部は感潮域であり、河床勾配は緩やかです。魚類としては、ボラ、クサフグ、ウナギなどが確認されています。鳥類は、アオサギ、キセキレイなどが確認されています。

早岐川の河川利用は、水辺へ降りる場所が少ないため河川空間としての利用はほとんどありませんが、下流部の早岐小学校では早岐川を総合学習の一環に取り入れ環境学習の場として活用しています。

早岐川は水質に係る公共用水域の類型指定を受けていませんが、早岐橋地点（河口から約0.3 km）では経年的に観測が行われています。同地点における平成9年から平成13年のBOD75%値の平均値は、9.8 mg/ℓとなっています。この値は、悪臭の発生限界と言われる10 mg/ℓに近い値です。

(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

長崎県では、長期総合計画の中で「地域を支え合う安全・安心な社会づくり」、「自然環境と人々が共生する社会づくり」を政策に掲げ、安全で快適な生活環境づくりをめざしています。

早岐川の整備においても、これらの基本理念に基づき、関連地域の社会、経済の発展に係わる諸計画（佐世保市総合計画、佐世保市都市計画マスタープラン等）との調整を図りながら、水源から河口まで一貫した計画のもとに、河川の総合的な保全と利用を図っていきます。

またその際、地域へ種々の河川情報を提供するとともに、河川に対する要望の集約、河川の整備・保全に係る取り組みの促進、河川の維持に係る取り組みの支援を行い、地域住民と連携した川づくりを行います。

1) 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

早岐川は、想定氾濫区域内の状況、県内バランス等を考慮し、計画規模の降雨により発生する洪水を安全に流下させることのできる整備をめざします。

また、整備途上における施設能力以上の洪水や計画規模を超過する洪水等に対しては、洪水による被害を最小限に抑えるために、関係機関と連携して警戒避難及び情報連絡体制の整備等のソフト対策を総合的に実施するとともに、佐世保市が作成するハザードマップ作成に向けた支援を行います。さらに、災害に強い地域づくりのため、土地利用計画との調整を行うなど、流域と一体となった取り組みを推進します。

2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項並びに河川環境の整備と保全に関する事項

河川水の利用に関しては、地域住民や佐世保市等関連する他行政機関との緊密な連携のもとに合理的な水利用の促進等、適正な水利用を図ることにより流水の正常な機能の維持に努めます。

特に、当河川では劣悪な水質の向上にむけ、関係機関と調整、連携を行い水質管理並びに水質対策に努めます。また、農業用水の水源や生活用水の水源として利用されているため、地域住民と連携・協力し適正な水利用を推進するとともに、河川環境に配慮した維持管理をめざします。

河川環境の整備と保全に関しては、早岐川沿いの市街化が進む中で、メダカやカワセミ、カスミサンショウウオをはじめとした動物の生息環境をできるだけ改変しないために、中流部の山付き区間に形成された樹林地を保全するとともに、山付き部に形成された瀬やたまりなどの多様な水際環境を保全します。また、下流部の感潮区間ではウナギの生息場、

アオサギ、キセキレイなどの鳥類の休息場、採餌場に配慮した整備を行います。

さらに、親水性の向上や地域住民の憩いの場としての利用を考慮した良好な河川空間の整備を行っていきます。

3) 河川の維持管理に関する事項

河川の維持管理に関しては、災害の発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から適切に行います。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水のピーク流量は、基準地点^{ひえだ}稗田橋(河口から約0.85km)において75m³/sと設定し、これを河道に配分します。

基本高水のピーク流量等一覧表

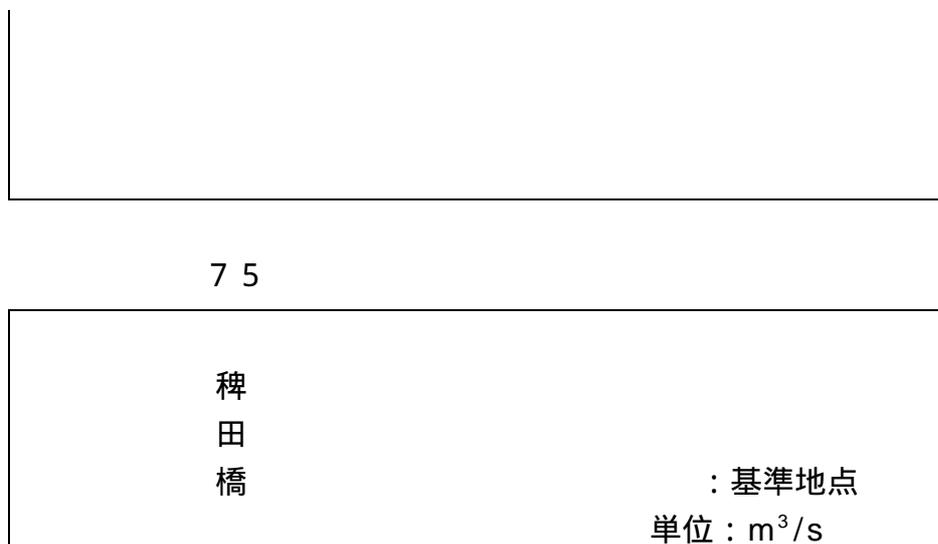
(単位：m³/s)

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
早岐川	^{ひえだ} 稗田橋	75	-	75

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

早岐川における計画高水流量は、基準地点稗田橋において75m³/sとします。

早岐瀬戸



早岐川計画流量配分図

- (3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項
 本水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は次表のとおりとします。

主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 (T.P.m)	川 幅 (m)	摘 要
早岐川	ひえだ 稗田橋	0 . 8 5	+ 6 . 4 8	1 1	基準地点

(注) T.P. : 東京湾中等潮位

- (4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

早岐川の河川水は、約 6 ha の水田で利用されています。

流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関しては、今後、流量データの蓄積、水利用の実態把握等に関する調査検討を行います。

